

## 特別支援学校におけるチェンバロを用いた鑑賞教育研究

和歌山大学附属特別支援学校：中筋千晶、  
久保田竜生、道上里砂  
和歌山大学教育学部：山名敏之

### 【研究内容の概要】

#### 1. 題材名

耳で聴く歴史 ～チェンバロの音の出る仕組みを知ろう～

#### 2. 題材の目標

- ・チェンバロにおけるレジストレーションを理解し、演奏を楽しむことができる。
- ・実際にチェンバロに触れ、レジストレーションによって音色を変化させる仕組みを知る。

#### 3. 題材について

昨年度の鑑賞授業において、多くの生徒さんがチェンバロの音色とその変化に興味を持って質問することが多かったので、今年度はチェンバロにおける演奏の醍醐味の一つである、レジストレーションの仕組みについて理解し、演奏を楽しむことができることを課題とした。

4. 対象：附属特別支援学校高等部の生徒さん

5. 授業の展開

<p>○演奏鑑賞 1 チェンバロの発音原理を思いだす。</p> <p>♪ <small>さつきよく</small> ルイ・クーブラン作曲：プレリュード バック 8'1本</p>	<p>理解すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弦をはじいて音をだす。</li> <li>・音質が現代のピアノとは全く異なる。</li> <li>・鳥の羽軸、クイルで弦を弾く。</li> <li>・現代のピアノでこの表現を再現することは難しい</li> </ul>
<p>○演奏鑑賞 2 チェンバロにおける弦の撥き方</p> <p>♪ <small>さくしやふしょう</small> 作者不詳のシャンパーニュ<small>ちほう</small>地方の<small>ろんど</small>輪舞 バック 8'1本、フロント 8'1本</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックに設置されたタング、タングに設置されたクイルといった部品の機能を知る。</li> <li>・ジャックとタングの位置関係を理解する。</li> <li>・本来ならジャックの往復で音が2度なっているはずなのになぜそうはならないのか？</li> <li>・タングの動きの特殊性によって2度なることが回避されていることを知る。</li> <li>・タングの動きの特殊性は、その下部の形状と関係があることを知る。</li> <li>・タングを戻すバネは豚の毛</li> </ul>

<p>○演奏鑑賞 2</p> <p>チェンバロにおけるレジストレーションを知る。</p> <p>◆生徒さんたちにはチェンバロの周りにあつまってもらおう。</p> <p>◆実際に鍵盤とジャックレールを見してみる</p> <p>◆弦の真ん中寄りを撥くように設置されているジャックと端よりを撥くように設置されているジャックがあることを実際にジャックレールを見せながら説明する。</p> <p>◆先ほど聞いた輪舞で音質を示唆</p> <p>◆4フィートの音を実際に聴いて確かめる。</p> <p>※写真参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日のチェンバロは鍵盤が2段であること</li> <li>・下の段の鍵盤は通称「バック」</li> <li>・上の段は「フロント」</li> <li>・同じ鍵盤にもう一つ別の1オクターブ上の短い弦が張ってあること。</li> </ul>
<p>○レジストレーションの組み合わせを知る</p> <p>◆バック+フロント 8'2本</p> <p>◆バック 8'1本、フロント 8'1本</p> <p>上下の鍵盤を別々に使う面白さ</p> <p>◆バック+フロント 8'2本とフロント8'1本の組み合わせも可能</p> <p>◆バック+フロント 8'+4'3本</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴィヴァルディの四季の春第一楽章を例にとり、自然描写について知る。</li> <li>・レジストレーションによる、音色の変化、そしてそれぞれの組み合わせの面白さを聞き分ける。</li> <li>・上下鍵盤を行き来することによって、多様な音作りができること。</li> </ul>
<p>○生徒さん達によるレジストレーション体験</p> <p>◆全てのレジストレーションを体験してもらおう。</p>	
<p>○演奏鑑賞 3</p> <p>♪ヴィヴァルディ作曲：四季より春、第1楽章</p> <p>バック+フロント 8'2本、 バック 8'1本、 フロント 8'1本、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春のさまざまな情景描写があることを理解する</li> <li>・このレジストレーションは滅多に使われないが、16世紀の雰囲気を出したい時に使われることがある。</li> </ul>

<p>♪ジョン・ブル作曲：王の狩 バック 8'1本、4'</p> <p>♪J.S.バッハ作曲：半音階的幻想曲とフーガ バック+フロント 8' + 4'3本、 バック+フロント 8'2本、 バック 8'1本、フロント 8'1本</p>	<p>・チェンバロの機能を最大限に発揮させることのできる代表的な作品。レジストレーションの変化を感じながら鑑賞する。</p>
--	--

**【取り組みの成果】**

演奏後の質問・感想発表会

○多くの生徒さんが積極的に発言していた。

○特に印象的だったのは、ルイ・クーブランがもっとも印象に残ったという感想。成熟した鑑賞力の持ち主。

○全体で2時間近いイベントであったにもかかわらず、静寂を保ち、熱心に聞き入っていた。

○チェンバロに一人一人が触れ、レジストレーションを変えていくセクションでは、みな積極的に思いおもいの曲を演奏し、音色の変化を楽しんでいた。

ワークシートより

○ここでは「王の狩」が人気。

○レジストレーションについて「おとの混ざり」との表現がみられた。

○もっとも気に入った曲として5曲中4曲が採り上げられていた。このことから生徒さん達が思い思いにそれぞれの楽しみ方ができていたと考えられる。

○「はげしくなったり」とか「やさしくなったり」とか「すいこまれるようだった」等といった具体的な表現を伴った感想が見られた。

**【反省会を踏まえての来年へむけての課題】**

○レジストレーションに関しては、授業途中にその切り替えによっておこる音色の変化と実際に鍵盤に触れた時の感触とを、一人一人個別に、時間をかけて経験してもらったことによって、その後の演奏理解につながったと考えられる。

○しかし、ややワークシートにおける感想にその点に関する言及が少なかったことは反省するべき。

○生徒さんから多様な考え・思いを引き出すための問いかけ、鑑賞教材の選択、提示方法を引き続き検討する。

○演奏会場の響きがとてもよかった。

**【演奏会の様子】**



**【楽器に触れるコーナーの様子】**

